

過疎新法 過半が指定外

県試算、現18市町村中 人口改善理由、財政に打撃

県、自治体継続求める

過疎対策として、人口減少対策として、財政的に苦しい自治体を支援する過疎新法が、現時点で指定外となる自治体は、沖縄県全体の人口減少対策として、財政的に苦しい自治体を支援する過疎新法が、現時点で指定外となる自治体は、沖縄県全体の人口減少対策として、財政的に苦しい自治体を支援する過疎新法が、現時点で指定外となる自治体は、

過疎新法の指定外自治体は、現時点で指定外となる自治体は、沖縄県全体の人口減少対策として、財政的に苦しい自治体を支援する過疎新法が、現時点で指定外となる自治体は、



2年連続9度目の優勝を果たした沖縄尚学の選手ら＝11日、沖縄市のコザしんさんスタジアム(ジャン松元撮影)

大東村、北東村、竹園町、うるま市など、指定外となる自治体は、現時点で指定外となる自治体は、沖縄県全体の人口減少対策として、財政的に苦しい自治体を支援する過疎新法が、現時点で指定外となる自治体は、

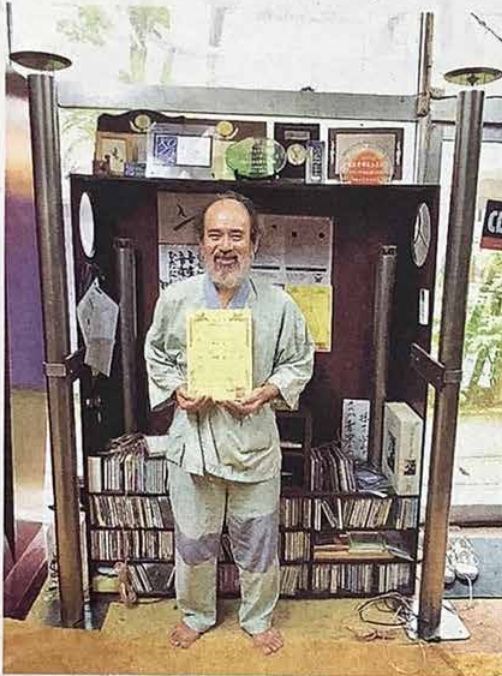
第3種郵便物認可

【月ごめ購読料3,075円(本体2,848円+消費税227円)】

王流 王求 糸斤

知名オーディオの知名代表 小型で20w再生、世界初

低音スピーカーに特許



【沖縄】沖縄市中央にある「知名御多出横(知名オーディオ)」の知名宏師代表に、8月12日に特許証が交付された。大型スピーカーでなければ再生できなかった低音を、知名代表が2005年に開発した直径8cm、高さ2cmの小型筒状スピーカーで再生できることを、特許庁に認められた。

小型筒状スピーカーで人が聞こえる低音域の再生を実現したのは世界初で、今回の特許取得で知名代表の理論が証明された。

人に聞こえる周波数の範囲(可聴域)は低音で20ヘルツ、高音で2万ヘルツと言われており、これまで20ヘルツの低音を再生するためにはスピーカーを大型化する必要があった。高さも17cmが必要で、小型スピーカーとしての商品化は難しいとされていた。

知名代表はパイプオルガンのような筒状のスピーカーを作り、空気を自由振動させて音が共振(共鳴)することで、低音の再生に成功した。この低音再生技術を「八分のλ(ラムダ)」と名付けた。20ヘルツの波長

「八分のλ」(ラムダ)

(17cm)の8分の1(約2cm)で、20ヘルツの低音を再生可能にした「知名定数」の理論が認められた。

知名代表は「1940年代に米国コロンビア大学のオルソン博士が書いた音響工学理論による箱型スピーカーの定説を覆したことがうれしい。特許で理論を証明されたので、実物の知名オーディオを見て聞いて体感してほしい」と呼び掛けた。問い合わせは知名オーディオ098(938)3994。

(喜納高宏通信員)

小型筒状スピーカー「雅(Miyabi)」の前で特許証を手にする知名宏師代表＝9月30日、沖縄市中央の「知名御多出横(知名オーディオ)」